



東明

□令和4年3月25日発行

□男鹿市立男鹿東中学校

男鹿市船越字根木169番地

若竹の健児よ、英志つらぬけ

第50期卒業生104名の新たな旅立ちを祝って

卒業証書授与式の校長式辞より（要旨）

ここ船越根木の地にも、温かな風が吹き始め、春の到来を感じさせる日差しが、日一日と輝きを増してきています。新たな旅立ちを祝福するようなこの佳き日に、男鹿市教育委員会委員吉田貴美子様、副市長佐藤博様のご臨席を賜り、保護者の皆様のご列席の下、令和3年度男鹿東中学校卒業証書授与式を挙げていくことは、この上ない喜びであり、厚くお礼申し上げます。

第五十期卒業、百四名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。先ほど、卒業証書を一人一人と目を合わせ、手渡ししながら、様々な場面での皆さんの姿を思い出していました。

一つ目は、皆さんの「学ぶ」姿です。日々の授業では、仲間と学び合ったり、振り返りで互いの成長を認め合ったりしながら、笑顔で学習に臨みました。その成果は、授業における学習習慣を確立するためのキャンペーン「学習評価表調べ」における、立て続けのオール5の達成や、基礎テストの高い合格率に現れました。総合的な学習の時間では、福祉をテーマに、男鹿市の現状を踏まえ、全ての人が幸せになるための課題について探究し、自分の考えを提案しました。受験期に入ると、夢に向かって粘り強く学び続け、そして今その努力が実ろうとしています。書道や作文などの文化的な面でも、数多くの成果を残しました。

これらは本校の目指す生徒像「見通しをもって自ら学ぶ生徒」の姿であり、志を叶えるために学ぶ眼差しは、常に未来を熱く見つめていました。

二つ目は、皆さんの「挑む」姿です。市郡総合体育大会では、お世話になった方々への感謝の気持ちを胸に、日々高めてきた体力と技能、精神力を発揮しました。結果は、三競技の団体優勝を始め、準優勝が二競技、第三位が一競技、個人優勝十四種目と立派な成績を収めました。県大会でもその勢いは止まらず、ラグビーが優勝、そして、バスケット女子、柔道女子は準優勝、個人でも二種目で優勝を果たし、東北大会へ駒を進めました。さらに、ラグビーは十四年ぶりに念願の東日本大会本戦へ出場するなど、皆さんの勇ましい姿は地域に元気を届けました。吹奏楽においては、コンクール中央地区大会で金賞を受賞し、県大会でも銅賞に輝きました。例年ないほどの栄冠を持ち帰った皆さんの表情からは、充実感や達成感がみなぎっていました。

これらは目指す生徒像「自信をもって笑顔で挑戦する生徒」の姿そのものであり、自らの可能性に粘り強く挑み続ける笑顔は、未来を切り拓くエネルギーに満ちあふれていました。

三つ目は、互いに絆を「結ぶ」姿です。六月の運動会では、執行部発案の新種目、部活動対抗リレーが行われ、全プログラム中最も盛り上がりました。伝統の応援合戦では、練習から率先して声を出し、後輩に模範を示しながら、各組を見事にまとめ上げました。テ

ーマ「響け応援の声（ファンファーレ）」のとおり、グラウンドには、仲間を応援する熱い声援が終始響きわたるとともに、それに応えようと全力を尽くして躍動する皆さんの姿がありました。九月の東中祭では、テーマ「To be united」を実現し、全てのプログラムを成功に導きました。特に合唱コンクールでは、三年生のどの学級も完成度の高い合唱を創り上げました。学級の絆を歌声に乗せ、美しく重厚なハーモニーを会場いっぱいに響かせました。パリエティーに富んだ楽しい吹奏楽の演奏、有志によるダンスや歌などの魅力あふれるパフォーマンス、執行部によるアイデアあふれるオープニングセレモニーなど、どの場面をとっても、皆さんの勢いやエネルギーに圧倒されました。

これらは本校が目指す生徒像「仲間や地域と絆を結ぶ生徒」の姿であり、コロナ禍など、どのような困難に見舞われたとしても、強い絆があれば、思い描く未来を手にすることができることを証明しました。

このように、一つ一つの場面には、三つの志「学ぶ」「挑む」「結ぶ」を確かに具現した皆さんの姿がありました。

これから新しい道を歩み始める皆さんへ、将来において、大切にしてほしい言葉を贈ります。その言葉は、皆さんもよく知る、本校の校訓、教育目標である「英志つらぬけ」です。「志」という言葉には、心に決めた目標という意味以外に、「相手を思いやる気持ち」という意味があります。ですから、「英志つらぬけ」には、「自分も皆も幸せになる、心に決めた目標を実現するために、努力し、突き進んでいこう」という願いが込められています。

人は一人では生きていくことはできません。英志をつらぬき、夢を叶えるためには、自分の固い意志や努力が大切であることはもちろんですが、その過程には、周りの方々の支えが必ずあることを忘れてはいけません。例えば、高校受験では、家族や友達、先生方の支えがあったのではないのでしょうか。目標に向かって進むことと合わせて、仲間や家族、地域のために何ができるだろうかを考え、感謝の気持ちをもって行動に移すことが、本当の意味での自分の英志をつらぬくことにつながるのです。

今、本校を巣立ち、新たなスタートを切り、自分の未来を切り拓いていく皆さんに、改めてこの言葉、「英志つらぬけ」を、そして、そのために大切にすべき三つの志「学ぶ」「挑む」「結ぶ」を贈ります。



令和四年三月十日

あなたたちの翼を、男鹿東中学校で蓄えたエネルギーで一杯にして、いよいよ旅立つ時が来ました。皆さんが、英志をつらぬき、自らの手で夢をつかむために、力強く羽ばたくことを祈念して、式辞といたします。

男鹿市立男鹿東中学校長 森山 直人